

## 2023.05.23 参議院内閣委員会

(それまでの働き方改革をめぐる質問で河野国務大臣から質問通告の時間が遅いので官僚が対応できず、結果未明からの大臣レクチャーが発生する等の返答。その後、答弁側の入れ替わりがあって)

杉尾秀哉議員：で、今日はこちらを聞きたいのですが、今年には死者行方不明者 10 万人出しました関東大震災、皆さんもよくご存知のように 100 年になります。この震災による混乱で「朝鮮人が井戸に毒を投げ入れた」などというデマが拡がって、朝鮮人や中国人が多数殺害された。加害者には、住民で組織された自警団の他にも警察や軍隊も関わっていたと、こういう風にされています。そこで文科省に伺います。こうした関東大震災での朝鮮人・中国人の殺害についての記述がある中学・高校の教科書がどれくらいあるか、端的に教えてください。

文部科学省大臣官房寺門学習基盤審議官：お答えいたします。ご指摘の点につきましては、中学校社会科歴史的分野の 8 点中 7 点、高等学校歴史総合においては 12 点中 9 点、高等学校日本史探求においては 7 点中 7 点に記載がございます。

杉尾：ほとんど記載があるんですね。この中で軍隊や警察の関与についてふれられているのはどれくらいありますか。これも端的に。

寺門：ご指摘の点につきましては、中学校社会科歴史的分野の教科書は 8 点中 4 点、高等学校歴史総合の教科書は 12 点中 4 点、高等学校日本史探求の教科書は 7 点中 1 点記載がございます。

杉尾：はい、お聞きのように軍隊警察の関与についてふれている教科書、これも相当程度あります。そこで、朝鮮人・中国人の犠牲者の数について具体的にどういう記述がされているのか、ちょっと象徴的なケースだけ紹介してください。

寺門：申し訳ございません。先ほどの警察の関与に関しまして 1 点訂正させていただきます。高等学校日本史探求の教科書 7 点中 7 点に記載がございます。で、直近のお尋ねでございます犠牲者の方の数でございますけれども、「多くの」ですとか「数多く」また「多数」という表現を記述しているもの、また「朝鮮人については数百人から数千人、中国人については数百人などという説もあり、通説は定まっていない」など、教科書によって異なっているところでございます。

杉尾：さっき訂正ありましたけど、高校の教科書はほとんどふれているんですよ。そして、例えばある教科書はいくつかケースが示されていて、例えば230人くらいから2610人、6650人。色んな調査があって、いずれにしてもこういう数字が具体的に出ている教科書もあります。それで、この関東大震災による教訓を継承するため、中央防災会議の専門調査会、2008年に報告書を出しました。次のような記述があります。「殺傷の対象は朝鮮人が最も多かったが、中国人・内地人も少なからず被害にあった。加害の形態は、官憲によるものから、官憲が保護している被害者を民間人が殺害したのまで多様であった。犠牲者の正確な数はつかめないが、震災による死者数の1～数%にあたる。」こういう記述がですね、中央防災会議の専門調査会報告書の中に書かれています。この記述について政府も認めますか？いかがですか？

内閣府大臣官房上村審議官：中央防災会議の災害教訓の継承に関する専門調査会が、平成21年3月にとりまとめました関東大震災報告書の第二編において、委員ご指摘の内容が記載されているものと承知しております。

杉尾：つまり中央防災会議、まあこれは執筆者も書いてありますけれども、中央防災会議の報告書にもですね、こういうことが事実として書かれてある。で、この報告書の記述というのは、何を根拠にして書かれているか、これもここの報告書の中にあると思いますけど、紹介してください。

上村：報告書では、当該記述について、「関東戒厳司令部詳報」、「震災後における刑事事犯及びこれに関連する事故調査書」などの資料が根拠資料として記載されているものと承知しております。

杉尾：はい、当時の公的記録と公文書に依存した叙述、こういう風なくだりがあります。東京都の公文館に所蔵されているもの、「関東戒厳司令部詳報」それから内務大臣後藤新平の関連文書、朝鮮総督府が調査をしたその記録、で、この震災の教訓について報告書に、最後締めくくりにどういうことが書いてありますか？

上村：報告書では、関東大震災の応急対応における教訓の一つとして、流言が殺傷事件を招いたことを掲げておりまして、その背景として、当時の軍隊や警察、新聞等が流言の伝達に寄与し混乱を増幅したこと、火災による爆発や井戸水の濁りなどの発生について爆弾投擲、投毒など

のテロ行為によるものと誤認したこと、軍隊や警察による武器使用や保護のための連行等が、流言を裏書きするように誤認されたこと、などが記載されております。また、これらを踏まえた教訓として、過去の反省と民族差別の解消の努力が必要なことを改めて確認した上で、流言の発生、自然災害とテロの混同が現在も生じうる事態であることを認識する必要があること、不意の爆発や異臭など、災害時に起こりうることの正確な理解に努めること、冷静な犯罪抑止活動に努めるべきであること、などの記載がなされている旨、承知しております。

杉尾：つまりこうした事が起きた過去の反省とそれに基づく民族差別の解消が必要であって、これは今日的な課題なんだということが、この報告書の締めくくりに書いてある。しかし、こうした過去の反省が本当に政府にあるのか、甚だ疑問という風に言わざるを得ない。ヘイトクライム、まさしく今日的な課題だと思っております。もう一つ、この報告書の少し前ですけれども、2003年、日弁連が国に対して、被害者らに対する謝罪と真相究明などを求める勧告を出しました。しかし、この勧告に対しては、全く何の答えも行われておりません。どうして日弁連の勧告に答えないのか、また今後も答えるつもりが無いのか答弁してください。

警察庁楠木長官官房長：お尋ねの日本弁護士連合会の勧告につきましては、平成15年8月、政府において受け付けられた後、同年9月、警察庁などにも回付されたものと承知しております。この勧告につきましては、過去の質問主意書においてご答弁申し上げております通り、調査した限りでは政府内にその事実関係を把握することができる記録が見当たらないことから、当時、具体的にどのような議論や検討がなされたかを含め、勧告への政府の対応についてお答えすることは困難であるというふうに考えております。

杉尾：今の答弁にありましたけれども、実はこの関東大震災をめぐる中国人・朝鮮人の殺害について過去8本の質問主意書が出されておりました、私も去年1本出しました。いずれも回答は、けんもほろろなんです。そして、その回答の内容ですけれども、今答弁にもありました言葉と全く一緒です。「調査した限りでは、政府内に事実関係を把握することのできる記録が見当たらず、お答えすることが困難だ」と、今おっしゃったようなそういう内容が全くですね、ずっとこの8本最後まで全部書かれているんです。「調査した限り」というふうに書かれていりますけど、調査してないんじゃないですか？」

楠木：お尋ねの質問主意書に対する答弁書におきましては、ま、先生からお話がありました通りご答弁申し上げているところでございます。で、この調査につきましてでございますけれども、この質問主意書としてお尋ねがあった際に回答する文書の存在する有無などについて各省に確認をしているところでございます。

杉尾：私もね、去年の質問主意書を出すにあたって国立国会図書館に所蔵されてある文書、「斎藤関係文書」というやつなんですけれども、ここにですね、ちゃんと見出しがあって、その見出しの中ですね、当時の記録がそのままコピーされているもの、これ国会図書館で、しかもインターネットで検索できるんですよ、あるんですよ。調査した限りというふうにまあ言ってますけれども、私12月6日にこの質問主意書を出して、16日に閣議決定されて、10日間しかないんですよ。調べてないんですよ、これ。で、これ全く同じ返答してて同じようなサイクルで答弁書が返ってきてるんですけど、政府として確認してないっていうのは、これおかしいじゃないですか。どうですか？

楠木：お尋ねの文書の関係でございますけれども、繰り返しにはなりますが政府といたしまして調査した限りでは、政府内に事実関係を把握することができる記録が見当たらなかったことから、仮にご指摘の資料を確認しても、その内容を評価することは困難であるというふうに考えているところでございまして、ご理解いただければと考えております。

杉尾：理解できませんよ。だってこれ公文書が残ってるじゃないですか、国会図書館に。それがなんでですね確認できないっていう答弁になるんですか。その出処とか調べたら色々あると思いますけど、さっきから教科書についても記述がある、そして中央防災会議の報告書の中にも、こうした資料に基づいて、こういう公的な文書が出されている、そして政府は答弁書の中で、この中央防災会議の報告書について、有識者が執筆したもので政府として関知しないという主旨の答弁をしているんですよ。あまりにもこれ不誠実すぎませんか。どうですか。

楠木：繰り返しになって恐縮でございますが、先ほど申し上げました通り、質問主意書を頂いて答弁を作成するにあたり、各省に確認をいたしてその結果に基づきまして、政府内に事実関係を把握することができる記録が見当たらなかったということで、そのようにご答弁を申し上げているところでございます。

杉尾：いや、見当たらなかったんじゃないなくて、あるんですって言ってます、さっきから。繰り返しになりますがついて同じことを繰り返して、それで済むと思ってますか？この問題で政府は、問題の所在すら一切認めていませんし、謝罪もしてないんですよ。谷大臣、ここで伺いたいんですが、先ほどの中央防災会議の報告書のですね最後の締めくくりにもありますけれども、過去を反省し、民族差別を解消するということは、極めて今日的な意義がある。こういうふうにはですね私も思います。この報告書の趣旨に全面的に賛同しますけれども、今年が震災100年です。これが本当にいい機会だと思います。関連の記録をまず精査してはどうですか？いかがですか大臣。

谷国家公安委員長：本年は、委員ご指摘の通り、我が国災害史において特筆すべき災害の一つである関東大震災からちょうど100年の節目にあたるわけでございます。お尋ねの件でございますが、先ほど政府委員からも答弁した通り、すでに政府として調査した限り、政府内において事実関係を把握することのできる記録が見当たらなかったものであり、ご指摘のような対応をとることは困難であることを、ご理解願いたいと思います。

杉尾：大臣、答弁書を読まないでですね自分の答えで、自分の言葉で答弁していただけませんか？今の話を聞いてて、おかしいでしょ。教科書にもこれだけ多数記録があつて、そして中央防災会議の報告書もあつて、何度も何度も繰り返し質問主意書が出されてて、その根拠になる文書もありますよ。東京都の図書館にもある。そして国立国会図書館にもある。せめて記録を精査した限りとか言わないで、これからちゃんとやりませんか？100年、これが最後ですよ。もうこの機会を逃すともう永遠にできませんよ。どうですか。大臣、自分の言葉でしゃべってください。

谷：私の答弁は、ええ原稿といいますか、しゃべっている限り私が責任持って話した言葉でございますので、そのように受け止めて頂きたいと思えます。まあ、繰り返しになりますけれども、政府内で事実関係を把握することができる記録が見当たらなかったということでございます。さらなる調査ということは考えていないところであります。ま、他方、一般論として申し上げますと、過去の大災害時における流言飛語などへの対応については、我々は歴史から謙虚に学び、安全安心の確保につなげていく必要があるということは、私も考えているところであります。

杉尾：今、歴史に謙虚に学びという風におっしゃいました。歴史に謙虚に学ぶのであれば、政府内に見当たらなかったと、こういう表現ではなくて、今現に入手ができる資料が色々ありますので、そうした資料を政府として責任持って精査してください。そしてこれは、どこの国もこういうことはやっているんです。過去の暗い歴史、これにしっかりと向き合うということが何よりも政府として大事であって、例えばアメリカのバイデン大統領、100年前に白人による黒人虐殺が起きたオクラホマ州タルサを訪問して謝罪をしています。ちょうど100年前のことです。人種差別撤廃に取り組む決意を表明しています。今回、この関東大震災の韓国人・朝鮮人のこの殺害についても「虐殺」というか「殺害」というか、色んな見方があると思いますけれども、少なくともしかし相当数の命が奪われたことは事実なんです。これを政府として重く受け止めて、これを歴史の闇に葬ることなく、しっかりともう一度向き合って、まず記録を精査してください。そして謝罪すべきは謝罪してください。そういうことについて大臣もう一度、自分の言葉でしゃべってください。

谷：先ほどから私が答弁している言葉は私の言葉でございますので、そのように受け止めていただきたいと思います。さきほどお話ししましたように、過去の大災害時は、色んなあること無いこと、過去というか直近でも熊本地震で、「動物園からライオンが逃げた」という事実で無い事をしかも写真まで加工して人々を不安に陥れたというのは記憶に新しいところでございまして、どういうふうにそういう混乱している時に流言飛語が飛び交う、それにどう立ち向かうかということは、過去の色んな災害時のことをしっかりと謙虚に学んで、そういうことが二度と起きないようにするというのが、我々の責務だ、というふうに思っております。しっかりとその点は、取り組んでいく必要があると思います。

杉尾：「動物園からライオンが逃げた」とか、そういう話じゃないんですよ。これは本当に。人の命の話なんですよ。もう時間になりますけれども終わりますけれども、9月1日に向かって色んな行事が行われると思います。繰り返し繰り返しこの問題が提起されると思います。これ、政府は逃げ続けるわけにはいかないと思いますよ。今年が大きなチャンスです。私たちも絶対に忘れませんから。また再び質問してお聞きすることをお約束して終わります。ありがとうございます。